

八尾市長 田中誠太 様

私は、八尾市の3月議会に対し、「東日本大震災災害廃棄物の広域処理に関する請願書」を提出しました、“子どもたちを放射能から守る・八尾の会”代表の松下勝則と申します。

このたびは、突然にお手紙を差し上げる非礼をお許してください。

2月29日に行われた市議会での自民党の代表質問に対して、田中市長は次のようにお答えになられたと聞いております。

「震災瓦礫問題、心情的には大至急処理をしてあげたいと、このように思っておりますが、やはり放射能という目に見えない部分での安全性の確認がなければ、市民の中には、なかなか取り入れられないというふうにも考えているところがございます。いろいろ資料をいただいておりますので、精一杯研究をしながら、八尾市民あるいは大阪府全体の安全性の問題をしっかりと考えなければならない」

この市長の答弁をお聞きし、私たちの思いと田中市長の思いが同じであることを確認することができました。私たちも、甚大な被害にあった東北地方を支援したい気持ちは強くあります。未来に渡っての安全、子どもたちに間違いのない環境が確保されるのであれば、地域に見合った受け入れは必要だと思います。

しかし、災害廃棄物の受け入れ処理で生ずる様々の問題を考えると、今の段階では受け入れに同意できるものではありません。

実際に広域処理の問題点が次々と明らかになるのに呼応して、受け入れを求められている全国の自治体でも、首長や議会が反対の声を上げるケースもだんだん目立ってきました。

しかし、これに対して環境省は、中身のある応答は一切せずに、メディアを使って大宣伝キャンペーンを始めています。その内容を見てみますと、広域処理を巡る住民の不安の第一である内部被曝の危険性には沈黙したまま、『安全だから被災地支援のために受け入れよう』と主張する内容のものばかりです。内部被曝を含む放射能汚染の危険性や、広域処理以外の方法については何の検討もせずに、かのごとく発言をすることは極めて偏っており、またその内容において不十分であると思われまます。

このような偏向報道が、田中市長の災害廃棄物受け入れを決定する判断材料になってしまわないだろうかという心配から、広域処理を批判する新聞記事や専門家の意見、政治家の発言などを、この手紙に同封させて頂きました。それが、この手紙を差し上げるに至った理由です。

できるだけ簡潔な資料を用意致しましたので、ご多忙中恐れ入りますが、ご高覧のほどお願い申し上げます。

クリアホルダーの資料は、廃棄物の問題に詳しく、実際に被災地にも足を運んで活動している〇〇氏が、広域処理の問題点をまとめたものです。とても貴重な内容になっておりますので、ご高覧いただければ幸いです。

天も地も躍動の季節、さらなるご活躍をお祈りいたします。

敬具

子どもたちを放射能から守る・八尾の会
松下勝則

【同封資料】

- ① 「瓦礫」のトリック・・・その危険性とトリックを正しく知ろう（中部大学 武田邦彦教授）
- ② 瓦礫受入れに反対する理由(12項目)（秋田大学 村上東教授）
- ③ がれきの受け入れに反対する理由（神戸大学大学院 山内和也教授）
- ④ 「フィルター本当に大丈夫？」「焼却ありき密室で決定」（東京新聞 2012.01.21）
- ⑤ 「がれき、復興足かせ」疑問「現地焼却すれば雇用も」（東京新聞 2012.02.15）
- ⑥ 「議論なく受け入れ疑問」（東京新聞 2012.03.08）
- ⑦ 放射能汚染災害廃棄物の焼却（環境ジャーナリスト 青木泰氏）
- ⑧ 復興に向けて首長に聞く（朝日新聞 2012.02.29）
- ⑨ 陸前高田市の戸羽太市長のインタビュー（日刊サイゾー）
- ⑩ 市民から見た「東日本大震災に伴う災害廃棄物広域処理」の論点
(東京都大田区議 奈須利江)
- ⑪ 放射性物質の都道府県別月間降下量と汚染 MAP（文部科学省発表）
- ⑫ 大阪府 がれき受け入れ予定 自治体 MAP（2012.02.16 現在）
- ⑬ 福島県郡山市から大阪へ避難された方の声
- ⑭ がれき受け入れについて医師の立場からの意見書(放射能防御プロジェクト医師ネットワーク)

◆クリアホルダーの資料

「八尾市として本当に被災地及び被災された方々の為に何をすべきであるか」

〇〇〇〇